

今年度のテーマは「パーソン・センタード・ケアを生かした多職種連携」です。

令和4年度

みょうこう ケアフォーラム

通信



令和4年度 第2回みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日 時：令和5年2月16日(木)18時30分～20時00分
- 会 場：新井ふれあい会館 ふれあいホール
- 参加者：45名(介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等)

概要

第1回目は、パーソン・センタード・ケアの考え方が生かされた事例発表をもとに、多職種の視点でパーソン・センタード・ケアについて意見交換を行いました。

今回は、利用者の社会参加や生きがいづくりなどを目的とした取組を行っているデイサービスセンターくりはらの「働くデイサービス」について、管理者の原良明さんから発表していただき、グループワークでパーソン・センタード・ケアの学びを深めました。

久しぶりの対面開催でしたが、グループワークでも活発な意見交換が行われ、実施後のアンケートでは、参加者全員が「日頃の支援を振り返る機会になった」と回答されており、対人援助職としての大切な考え方を改めて学ぶことができました。

事業所における取組発表

デイサービスセンターくりはらの原良明さんから「働くデイサービス」について発表していただきました。また、みなかみの里在宅介護支援センターの倉俣康子さんから、利用者の変化について併せて発表していただきました。



DSくりはら
原さん

<働くデイサービスについて>

- ・利用者の「生きがい・やりがい」を考え、地域とのつながりや社会貢献・参加を考えた取組みを開始したところ、「**誰かの為に役に立っている事は嬉しい**」「**私たちにだってできる事はまだまだある**」など、予想以上に反響が大きかったため、「働くデイサービス」の活動を開始。
- ・にんにくの皮むきや醤油瓶のラベル貼り、リード線カットなどの仕事があり、企業からも依頼が来るようになった。

<事業所の変化について>

- ・利用者の自発的な行動が増えた。
- ・取組前と比べ、デイサービスのキャンセル率が20%以上から10%以下に減少した。



みなかみの里
倉俣さん

<利用者の変化について>

- ・83歳女性、要介護1、アルツハイマー型認知症あり
- ・物忘れが見られていたが、夫の介護をしていたプライドもあり、すぐにはサービスの利用につながらなかったが、「ボランティアになるが手伝ってほしい」と勧めると、納得され利用につながった。
- ・しだいに利用が楽しみになり張り合いができることで、誰かの役に立っている実感を得て、自信を回復することができた。また、食欲低下で食事を抜くこともあったが、三食摂れるようになった。

G W

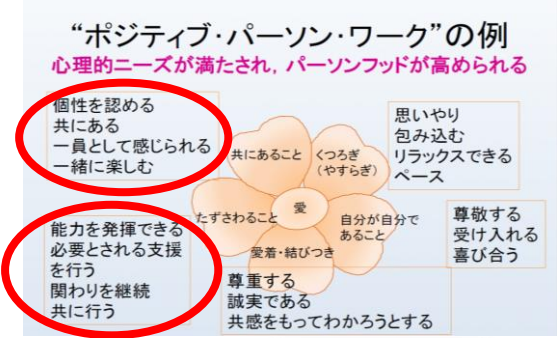
10グループに分かれ、話を聞いての感想や、自分の職種の立場でどのようにパーソン・センタード・ケアを活かしていけるか、意見交換を行い、全体発表を行いました。



久しぶりに顔を合わせてのグループワークで盛り上がりました！

取組のまとめについて

DSくりはらの原さんより、パーソン・センタード・ケアの観点で振り返りを行っていただきました。また、「働くデイサービス」で高齢化に伴う様々な課題を解決したいこと、社会全体で高齢者を支え合っていきたいことについて発表していただきました。

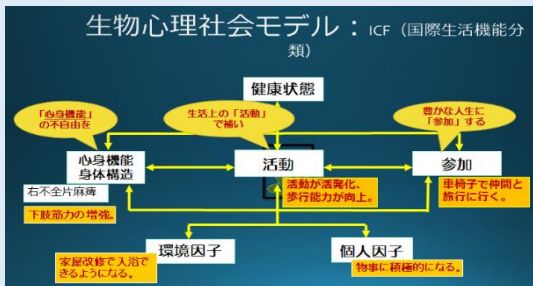


全体まとめ

実行委員会の揚石先生から、まとめを発表していただきました。



- ・生物医学モデルを上位とする障害モデル(1980年WHO)は、「機能障害」→「能力障害」→「社会的不利」といった一方向のモデルだったが、ICF(国際生活機能分類)モデルは生活機能の3レベル(心身機能・身体構造、活動、参加)が相互に影響し合っており、今回の場合は、「参加」を通じて、「活動」→「心身機能」が向上していったケース。
- ・地域連携連絡票には、本人・家族の目標とする生活やICF生活機能の状況を記載できる欄があるため、医療職・介護職が共通認識を持つため、活用してほしい。



地域連携連絡票 (介護給付用)

ご本人・ご家族の目標とする生活

ICF生活機能の状況

項目	内容
氏名	...
年齢	...
性別	...
職業	...
連絡先	...
ICF生活機能の状況	...

参加者アンケートでは・・・

- ・社会とのつながりを持つことで、張り合いになることは喜びにつながっている。素晴らしい活動だと思いました。
- ・利用者様一人一人を尊重し、かつ生きがいや、やりがいを見つける事が大事だと思いました。
- ・やはり、人として向き合うところが大切であり、原点であると思いました。

など、様々な感想が寄せられました。

今年度最後のケアフォーラムでした。専門職がチーム一体となって、さらに向上していけるよう、来年度も企画していきますので、どうぞ楽しみに！

